

みずほマーケット・トピック(2022年11月4日)

内容 1. 為替相場の動向

2. 来週の注目材料

※誠に恐れ入りますが、「3. 本日のトピック」はお休みさせていただきます。

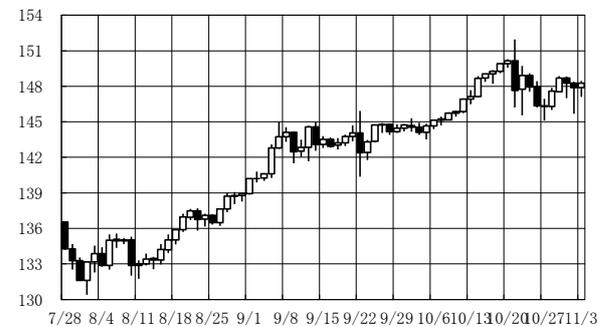
1. 為替相場の動向(関連レポート:「みずほ Customer Desk Report」、「今週の為替相場見通し」)

- 今週のドル/円は振れ幅と伴いながらも堅調推移した。週初31日、147.80円でオープンしたドル/円は一時下げ幅を広げるも、米金利上昇を背景にドル買いが加速、一時週高値の148.84円まで急上昇。1日、ドル/円はポジション調整の動きや米金利低下を受けドル売り優勢となり、一時147円台を割り込むも、その後の米10月ISM製造業景気指数の市場予想を上回る結果に米金利が急上昇、ドル/円も148円台前半まで急伸した。2日、ドル/円はFOMCを海外時間に控える中、利上げペース減速を予想する動きから米金利低下し、一時147円台を割り込んだ後、海外時間に入り米10月ADP雇用統計の結果に147円台前半まで回復。FOMCでは予想通り大幅利上げしたものの、その後のパウエルFRB議長の発言内容を受けて、次回会合での利上げペース鈍化観測が高まると、一時週安値の145.68円まで急落。ただ、利上げ停止に対しては慎重な姿勢示したことでドル買いが加速し147円台後半まで急反発した。3日、ドル/円は北朝鮮によるミサイル発射の報道を受けリスク回避の円買いが強まり147円台前半まで下落。その後は米長期金利の動きを眺めながらドル買いが強まり148円台半ばまで上昇した。本日のドル/円は148円台前半での取引となっている。
- 今週のユーロ/ドルは週後半にかけて下落、軟調推移となった。週初31日、0.9955付近でオープンしたユーロ/ドルは米金利上昇を受けドル買い優勢となり、0.98台後半まで値を下げた。1日、ユーロ/ドルは米金利低下に伴うドル売りや欧州株の堅調推移が支援材料となり0.99台半ばまで上昇。買い一巡後は米経済指標の結果や米金利の反転上昇が重しとなり0.98台半ばまで急落した。2日、ユーロ/ドルはFOMCを控え0.99ちょうどを挟んだ小動き。FOMC終了後、パウエルFRB議長の利上げペース減速を示唆する発言にドルを手放す動きが強まり、一時週高値の0.9976まで急伸。ただ、その後は一転してドル買いが加速し0.98台前半まで値を崩した。3日、ユーロ/ドルは前日のFOMCの内容が材料視され、米金利上昇に伴うドル買い圧力に押しられ週安値の0.9739まで下落。本日のユーロ/ドルも前日の安値付近での取引が継続している。

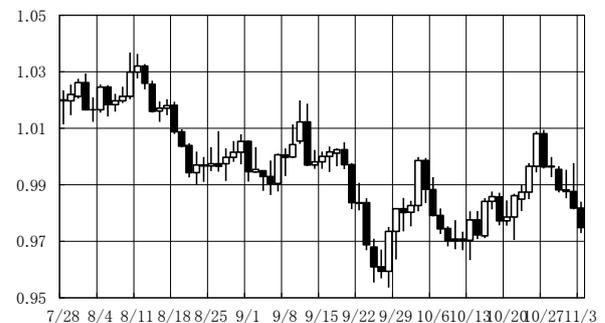
今週のおもな金融市場動向(出所:ブルームバーグ、みずほ銀行)

		今 週				
		10/28(Fri)	10/31(Mon)	11/1(Tue)	11/2(Wed)	11/3(Thu)
ドル/円	東京9:00	146.28	147.80	148.73	147.90	147.89
	High	147.86	148.84	148.82	148.37	148.44
	Low	145.99	147.55	146.99	145.68	147.12
	NY 17:00	147.44	148.75	148.23	147.94	148.26
ユーロ/ドル	東京9:00	0.9968	0.9956	0.9886	0.9876	0.9816
	High	0.9998	0.9965	0.9954	0.9976	0.9838
	Low	0.9928	0.9874	0.9854	0.9814	0.9730
	NY 17:00	0.9968	0.9881	0.9874	0.9816	0.9750
ユーロ/円	東京9:00	145.80	147.20	147.09	146.02	145.14
	High	147.33	147.67	147.10	146.32	145.22
	Low	145.70	146.73	145.97	145.04	144.05
	NY 17:00	146.88	147.00	146.35	145.28	144.54
日経平均株価	27,105.20	27,587.46	27,678.92	27,663.39	-	
TOPIX	1,899.05	1,929.43	1,938.50	1,940.46	-	
NYダウ工業株30種平均	32,861.80	32,732.95	32,653.20	32,147.76	32,001.25	
NASDAQ	11,102.45	10,988.15	10,890.85	10,524.80	10,342.94	
日本10年債	0.24%	0.24%	0.25%	0.25%	-	
米国10年債	4.01%	4.05%	4.05%	4.09%	4.15%	
原油価格(WTI)	87.90	86.53	88.37	90.00	88.17	
金(NY)	1,644.80	1,640.70	1,649.70	1,650.00	1,630.90	

ドル/円相場の動向



ユーロ/ドル相場の動向



2. 来週の注目材料

- 米国では、本日4日(金)に10月雇用統計が発表される。前回9月の非農業部門雇用者数は+26.3万人(前月比、以下同様)と8月から伸びはやや鈍化したが、増勢を維持。民間部門雇用者数は+28.8万人、政府部門雇用者数は▲2.5万人の結果となった。民間部門雇用者数に関する内訳は、民間サービス部門が+24.4万人で、余暇娯楽部門、医療部門や専門サービス部門で増勢が確認された。財部門は+4.4万人と堅調さを維持。また、失業率は3.5%と8月から低下。労働参加率(労働力人口÷生産年齢人口)については、就業者の増加を背景に62.3%と小幅に悪化した。失業率の低下を背景に賃金水準の上昇が報告されており、平均時給は+0.3%、前年比では+5.0%とこれが根強いインフレにも繋がっている。なお、10月の結果について、ブルームバーグの事前予想では、非農業部門雇用者増加数を+19.5万人と見込んでいる。失業率については、3.6%で労働参加率について62.3%の予想となっている。

また、10日(木)に10月消費者物価指数(CPI)の公表を予定している。前回9月の結果は前年同月比+8.2%と8月(同+8.3%)から若干減速した。一方で、食料品とエネルギー価格を除いたコアベースでは同+6.6%と8月の同+6.3%から加速した。内訳をみると家賃、帰属家賃が騰勢を強めているほか、人件費上昇を背景に輸送サービス、娯楽サービスなど対面サービス業の価格が上昇した。かかる状況を受けて今週開催のFOMCでは、75bpsの利上げを継続。足許の雇用・物価動向を踏まえて利上げの頂上が9月時点から更に上振れる可能性にも言及した。なお、9月消費者物価指数の結果についてブルームバーグの事前予想では、同+8.0%となっている。

政治関連では8日(火)に中間選挙が実施される。今回は、上院35議席、下院全435議席、州知事36ポストが改選対象となる。最大の争点は各党のインフレへの対応姿勢となっているが、その成果を巡りバイデン米大統領の支持率の低迷が報じられている。民主党と共和党の議席数は上院下院とも非常に接近している中、議会在がねじれとなる予想が強まっている。

	本 邦	海 外
11月4日(金)	・10月非製造業PMI(確報)	・ユーロ圏9月生産者物価指数 ・米10月雇用統計
7日(月)	—————	・ユーロ圏11月センチックス投資家信頼感指数
8日(火)	・9月景気動向指数(速報) ・日銀金融政策決定会合 主な意見(10月会合分)	・米中間選挙
9日(水)	・9月経常収支 ・10月景気ウォッチャー調査	—————
10日(木)	・10月工作機械受注(速報)	・米9月卸売在庫(確報) ・米10月消費者物価指数 ・米11月財政収支
11日(金)	・10月国内企業物価指数	・英7~9月期GDP(速報) ・米11月ミシガン大学消費者マインド(速報)

【当面の主要行事日程(2022年11月~)】

G20 サミット (11月15~16日)
 FOMC (12月13~14日、1月31~2月1日、3月21~22日)
 ECB 政策理事会 (12月15日、2月2日、3月16日)
 日銀金融政策決定会合 (12月19~20日、1月17~18日、3月9~10日)

市場営業部
 チーフマーケット・エコノミスト
 唐鎌大輔(TEL:03-3242-7065)
daisuke.karakama@mizuho-bk.co.jp

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。

バックナンバーをご希望の方は以下のサイトからお取り頂くことも可能です

<http://www.mizuuhobank.co.jp/forex/econ.html> (Archives) http://www.mizuuhobank.co.jp/forex/econ_backnumber.html

発行年月日	過去6か月のタイトル
2022年10月28日	週末版(ECB政策理事会を終えて～政策間の整合性が問われる状況に～)
2022年10月27日	ECB政策理事会プレビュー～再投資の行方～
2022年10月25日	製造業の国内回帰報道をどう理解するか？
2022年10月24日	圧倒的なファンダメンタルズ～円高は押し目という新常識～
2022年10月21日	週末版(半分になった円の価値～150円到達で何を思うか～)
2022年10月19日	天然ガス価格上限設定について～史上最も厳しい冬～
	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2022年9月分)
2022年10月18日	通貨高競争の足音～G20議長総括から何を学ぶか～
2022年10月17日	トラス英政権の軌道修正～機能した市場のアラーム～
2022年10月14日	週末版
2022年10月13日	FOMC議事要旨を受けて～2023年も高金利～
2022年10月12日	「季調済み経常収支、2か月連続で赤字」の意味
2022年10月11日	年初来ピークに達したイタリアの対独スプレッド
2022年10月7日	週末版(国連の正論をどう受け止めるか～とはいえ利上げ停止は不可能～)
2022年10月6日	水際対策完全撤廃を前に論点整理
2022年10月4日	散見され始めたドル暴落説を検証する
2022年10月3日	「世界第2位の対外純債務国」の命運は政治次第
2022年9月30日	週末版
2022年9月27日	伊メローニ新政権、現実路線への修正は可能なのか？
2022年9月26日	英トラス新政権、「成長に賭ける」という危険な賭け
2022年9月22日	週末版(FOMCを終えて～「春になれば円安は止まる」の真実味～)
2022年9月20日	EUは冬を乗り切れるのか～結局、節電頼み～
2022年9月16日	週末版
2022年9月15日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2022年8月分)
	円安抑止としての日本版HIAの可能性
2022年9月13日	鎖国政策終了とその後の課題
2022年9月12日	動き出す家計部門の外貨運用～金融教育の先に～
2022年9月9日	週末版(ECB政策理事会を終えて～スタグフレーションとの闘いに挑むECB～)
2022年9月7日	金利差が本当にテーマになるのはこれから
2022年9月6日	ノルドストリーム1の再開延期とユーロ安
2022年9月5日	円安更新はどこまで続くのか～140円台突破を受けて～
2022年9月2日	週末版(ECB政策理事会プレビュー～50bpか75bpか～)
2022年8月29日	ジャクソンホール経済シンポジウムを受けて
2022年8月26日	週末版(劣化する欧州経済の現状～読めないエネルギー供給とドイツのリセッションリスク～)
2022年8月24日	水際措置の緩和の評価～問題は上限ではない～
2022年8月23日	パリティ割れと欧州のインフレ動向について
2022年8月22日	顕著になる鎖国政策の副作用
2022年8月19日	週末版
2022年8月18日	過去最大を更新し続ける貿易赤字
2022年8月17日	生産者物価指数(PPI)と交易条件と円相場
2022年8月16日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2022年7月分)
	本邦4～6月期GDP～形ばかりの「コロナ前」回復～
2022年8月15日	独経済は不況の淵に～ライン川の水位低下～
2022年8月12日	週末版
2022年8月10日	独ライン川の水位低下とユーロ安リスク
2022年8月9日	2022年上半期の国際収支統計を受けて
2022年8月8日	ECBの再投資柔軟化はどこまで可能なのか？
2022年8月5日	週末版(ドル/円相場の近況をどう考えるか～歴史的な大相場は調整も非常に大きい～)
2022年7月29日	週末版(米4～6月期GDPの読み方～リセッション判断は尚早～)
2022年7月27日	IMF世界経済見通し(7月改定)を受けて
2022年7月25日	ドル/円相場の近況をどう評価するか？
2022年7月22日	週末版(ECB政策理事会を終えて～前門のインフレ、後門のリセッション、TPIという二番煎じ～)
2022年7月20日	ECBは7月+50bp利上げに舵を切るのか
2022年7月19日	パリティ割れの背景整理～歴史に学ぶ教訓～
2022年7月15日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2022年6月分)
	週末版(ユーロ圏景気とユーロ相場の展望～ユーロ安でこずるインフレ抑制～)
2022年7月14日	米インフレ加速も住宅市況には変調の兆しも
2022年7月12日	やはり顔を出し始めた新規感染者主義
2022年7月11日	リフレ政策の今後～悲報との因果関係はなし～
2022年7月8日	週末版(世論に効き始めた物価上昇圧力～日銀がスケープゴートにされる可能性～)
2022年7月7日	ユーロ相場急落の背景～ECBハト派化より重要なこと～
2022年7月5日	やはり反対していたドイツ～緊急政策理事会～
2022年7月4日	世界の外貨準備状況～22年3月末時点～
2022年7月1日	週末版(2年9ぶりのAPP停止と域内債券グループ化構想～遂に始まる加盟国の階層化～)
2022年6月28日	家計金融資産は動き出すか～22年3月末の状況～
2022年6月27日	世界は通貨高競争へ～逆・近隣窮乏化策の始まり～
2022年6月24日	週末版(ECB緊急政策理事会の読み方～落ち着かないラガルド流～)
2022年6月22日	「ドル高の裏返し」とは言い切れない円安の近況
2022年6月21日	タカ・ハト両面を演じるECB～難しいナローパス～
2022年6月20日	疑似的な通貨危機の様相を呈する日銀運営
2022年6月17日	週末版(ECB緊急政策理事会の読み方～落ち着かないラガルド流～)
2022年6月16日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2022年5月分)
	FOMCを終えて～円安地合いは固まるばかり～
2022年6月14日	悲慘指数を感じなかった日本人
2022年6月13日	米5月CPIから予見される「円だけマイナス金利」の未来
2022年6月10日	週末版(ECB政策理事会を終えて～利上げ幅拡大も示唆～)
2022年6月9日	黒田発言をどう解釈するか～リフレの終幕と実質GDI～
2022年6月8日	金利が説明力を持ち始めているか～133円台を受けて～
2022年6月7日	要請経済の継続はトリプル安に～参院選と金融市場～
2022年6月6日	ECB政策理事会プレビュー～サプライズがあるとすれば～
2022年6月3日	週末版(旅行収支と円相場の需給～制限ありきではインバウンドの影響なし～)
2022年6月2日	変容しつつあるユーロ圏物価情勢の現状と展望
2022年5月31日	31年連続、「世界最大の対外純資産国」の読み方
2022年5月27日	週末版(ドル/円相場と理論的な尺度について～もはや参考にしづらいPPPからの乖離～)
2022年5月26日	ブログで政策修正を図ったECBの真意～その②～
2022年5月25日	ブログで政策修正を図ったECBの真意
2022年5月20日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2022年4月分)
	週末版(円安相場は終わりなのか？～先行きは夏場以降の政治次第～)
2022年5月19日	本邦1～3月期GDPを受けて～「成長を諦めた国」～